

(人を対象とする医学系研究に関する倫理指針に則る情報公開)

このたび以下の研究を実施いたします。本研究への協力を望まれない場合は、問い合わせ窓口へご連絡ください。研究に協力されない場合でも不利益な扱いを受けることは一切ございません。

本研究の研究計画書及び研究の方法に関する資料の入手又は閲覧をご希望の場合や個人情報の開示や個人情報の利用目的についての通知をご希望の場合も問い合わせ窓口にご照会ください。なお、他の研究参加者の個人情報や研究者の知的財産の保護などの理由により、ご対応・ご回答ができない場合がありますので、予めご了承ください。

【研究計画名】 タウオパチーにおけるタウ異常蓄積機構の解明

【研究責任者】 国立精神・神経医療研究センター病院 臨床検査部 高尾昌樹

(2021年4月より、研究責任者が高尾昌樹に変更になりました。)

【本研究の目的及び意義】

脳内にタウ沈着を呈する疾患はタウオパチーと呼ばれ、老齢期の認知症の重要な原因の一つと考えられている。本研究では、タウオパチーの患者脳に発現するタウタンパク質や蓄積する異常型タウを解析し、その実体を明らかにする。また異常型タウがプリオン様活性を有して細胞から細胞へと伝播することが想定されていることから、異常型タウの構造とプリオン様性質の違い等について解析を行う。また、それらの患者脳由来の試料を用いて、タウの細胞、動物モデルを構築し、そのモデルを用いて、治療薬、治療法の探索や評価を行うと共に、新規バイオマーカーを探索する。本研究の目的は、タウオパチーの発症機構を解明し、治療法開発の手がかりを得ることであり、その成果は疾患患者にとって大きな意義がある。

【本研究の実施方法及び参加いただく期間】

対象となる方

2009年4月以降に国立精神・神経医療研究センター病院で病理解剖され、剖検検体の保管および研究使用に関して同意された方のうち、死後の病理診断により以下の疾患であると判定された方。

PSP（進行性核上性麻痺）、CBD（大脳皮質基底核変性症）、FTLD（前頭側頭葉変性症）、MSA（多系統萎縮症）、ALS（筋萎縮性側索硬化症）

利用する試料・情報等

試料：凍結組織（脳・脊髄）の一部(中心前回)

情報等：年齢、性、臨床診断名、死後時間、病理診断名など

研究期間

2019年4月25日から2024年3月31日まで

【共同研究機関】

東京都医学総合研究所	研究責任者	長谷川成人（研究代表者）
University of Manchester	研究責任者	Andy Robinson
東京都健康長寿医療センター	研究責任者	齊藤祐子
福祉村病院	研究責任者	赤津裕康

作成年月日：2021年3月17日 第5版

都立松沢病院	研究責任者	新里和弘
三重大学地域イノベーション学研究所	研究責任者	小久保康昌
筑波大学精神科	研究責任者	新井哲明

2021年5月

○問い合わせ窓口

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院

所属 臨床検査部 病理検査室 氏名 高尾昌樹

電話番号 042-341-2711 (代表)

○苦情窓口

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター倫理委員会事務局

e-mail : ml_rinrijimu※ncnp.go.jp (「※」を「@」に変更ください。)